

まずは特設サイトで動画を見てみよう。モノクロの画面に浮かびあがる佐賀城本丸歴史館。その壁には、見事な面魂を持つ男たちが映し出される。ハードなトラックに合わせて解き放たれるリリック(歌詞)。参加したMC(ラッパー)はKEN THE 390、KOH EI JAPAN、DEJI、Kダブシャインの4人。それぞれが作ったリリックを自ら歌い、直正の業績を讃える。間には「我が佐賀その名が/永らく輝くには自らが/故郷を愛し本気で言う/ザ佐賀コンティニューズ」というフック(サビ)が入り、気分を高揚させる。ところどころ出てくる侍姿の青年。最初はシルエットだったが、上半身裸になり、最後はなぜか…サックス? あっ武田真治だ!!

豪華MC競演 歴史愛好「真剣」

《特設サイト》<https://sagaprise.jp/thesagacontinues/>



【MV画像】あれっ! 武田真治さん?



【MV画像】本丸歴史館メインに撮影。直正公も登場

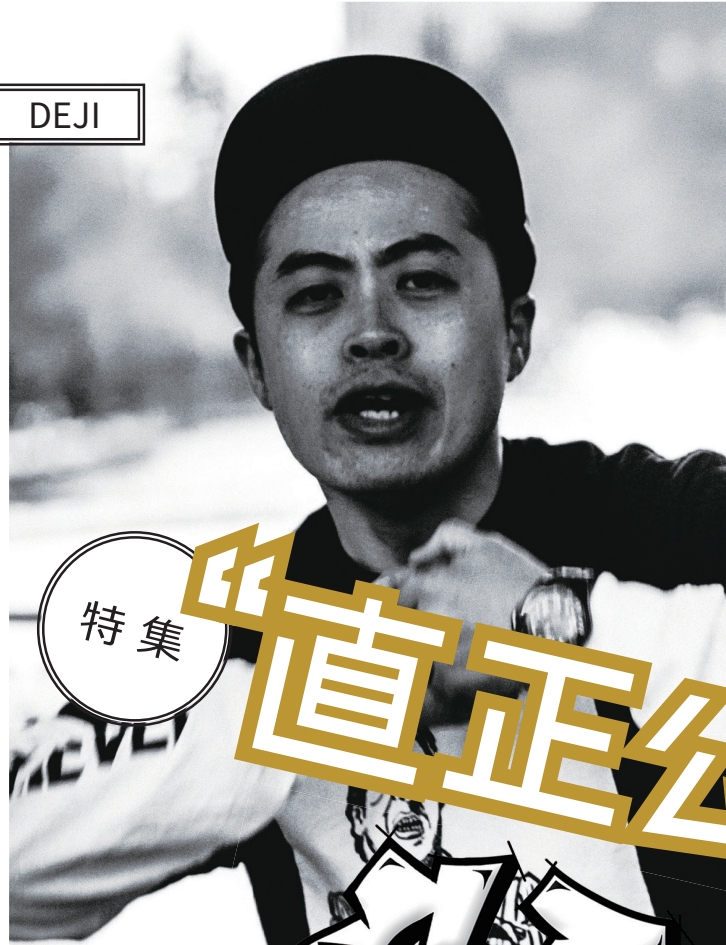
「来年が明治維新150年ということもあり、佐賀の維新期に焦点をあてる企画として昨年11月ごろスタートしました」と語るのは担当の田中裕資さんだ。もちろんかなりの歴史好き。当初は「幕末鍋島TV」という感じでラップどころか音楽という手法ではなく、コント的な動画を制作できないか検討していた。しかし、名護屋城をテーマにしたネット番組の陣中見舞いに行ったらと、出演者だった某有名ラッパーと歴史話で盛り上がり、歴史×ラップ」というアイデアが浮かぶ。「歴史に興味があるのは年配の人が中心。ラップにしたら若い人に届けることができるのではなにか。自分が学生だった2000年前後はヒップホップが盛り上がっていて、邦楽だとキングギドラ(Kダブシャインが所属)やリップスライム、洋楽だとカニエ・ウエストやエミネムなんかで、滾って」と笑う。

佐賀との機縁NOとは言えん

「来年が明治維新150年ということもあり、佐賀の維新期に焦点をあてる企画として昨年11月ごろスタートしました」と語るのは担当の田中裕資さんだ。もちろんかなりの歴史好き。当初は「幕末鍋島TV」という感じでラップどころか音楽という手法ではなく、コント的な動画を制作できないか検討していた。しかし、名護屋城をテーマにしたネット番組の陣中見舞いに行ったらと、出演者だった某有名ラッパーと歴史話で盛り上がり、歴史×ラップ」というアイデアが浮かぶ。「歴史に興味があるのは年配の人が中心。ラップにしたら若い人に届けることができるのではなにか。自分が学生だった2000年前後はヒップホップが盛り上がっていて、邦楽だとキングギドラ(Kダブシャインが所属)やリップスライム、洋楽だとカニエ・ウエストやエミネムなんかで、滾って」と笑う。

佐賀をあの手この手でPRする県のプロジェクト「サガプライズ!」。人気アニメ「おそ松さん」や「ユリ!!! on ICE」とのコラボから、有明海から東京・南青山に直送した干潟の泥「ガタ」に浸って楽しめる? パー「GATA BAR(ガタバー) from SAGA」など奇想天外な仕掛けで「佐賀」の認知度を革命的にアップさせている。そんなポップな仕掛けの中で異色なのが最新プロジェクト「The SAGA Continues...」だ。日本を代表するラッパーたちが佐賀藩第10代藩主・鍋島直正の業績を熱く歌い上げるミュージックビデオは、シンプルでカッコイイ。もっとも盛り上げるべく、ネットで「バズ」するための方法を考えよう!!

DEJI



特集

“直正公ラップ”

歴史愛好をバズらせたい!!



KOHEI JAPAN



KEN THE 390



K DUB SHINE

(HOOK)
我が佐賀その名が
永らく輝くには自らが
故郷を愛し本気で言う
ザ佐賀コンティニューズ

(K DUB SHINE)
遙か遠く、江戸の外れ
渋谷の坂やビルに隠れ
街の森の奥、水車ある池
から佐賀藩主の功績聞け!
江戸後期の情勢直視
欧米列強の現実を即し
武器製造で高めた抑止
軍事力強化務めた国士
このまんまでは良くないな
と語学に医学に国際化
目指し教育を特に改革
翻訳正確、技術開発
とデカイ鉄の大砲誇り
並んだ東京湾のほとり
松濤から感謝する近代化
閑叟ブランドデザイン書いた



(HOOK)
我が佐賀その名が
永らく輝くには自らが
故郷を愛し本気で言う
ザ佐賀コンティニューズ

(DEJI)
薩摩の島津佐賀の鍋島
未来担う日本のためになる
近代化の手法として信頼あるライバル
同士で手を握っては切磋琢磨
幕府も佐賀に大砲発注し高まる
富国強兵デッドヒート見渡す光景一歩リード

(HOOK)
我が佐賀その名が
永らく輝くには自らが
故郷を愛し本気で言う
ザ佐賀コンティニューズ

(HOOK)
我が佐賀その名が
永らく輝くには自らが
故郷を愛し本気で言う
ザ佐賀コンティニューズ

(HOOK)
我が佐賀その名が
永らく輝くには自らが
故郷を愛し本気で言う
ザ佐賀コンティニューズ

(KOHEI JAPAN)
江戸三百諸侯で唯一無二 海の外のコトには目をつむり
刀に甲冑 武器は火縄銃じゃ この日本を守る事は無理
いち早く強化する軍備 導入した西洋式銃器
黒い船が浦賀に来航する ずっと前に佐賀だけが標準装備
閑叟曰く「自分の不束は日本の御不束となる」
自腹で整備 長崎に要塞 鑄造に成功 鉄製の大砲
ペリー来航 迫る開国 幕府は助け乞うその最強の大砲に
江戸のお台場に据え付ける 佐賀の砲口が世界睨みつける

(HOOK)
我が佐賀その名が
永らく輝くには自らが
故郷を愛し本気で言う
ザ佐賀コンティニューズ

人材が大事 大砲も大事
それ気づくペリー来航13年前タイミング
世界の情勢 いち早く察知
「先憂後楽」そこで証明

(KEN THE 390)
時は維新の54年前
歴史に名を刻む名君が誕生
その名も佐賀藩第10代藩主
鍋島直正 a.k.a 閑叟
わずか17でなる藩主
まずは貧乏な藩から抜け出す
藩政改革で財政再建
10年もすりゃもう完全再生

さらに強化する長崎警備
西洋に遅れていたからリベンジ
鎖国してた当時の日本のどこよりも
早くから取り組む近代化



The SAGA Continues...
KEN THE 390, KOHEI JAPAN, DEJI, K DUB SHINE

2 楽曲をとおして佐賀場が伝えたいこと (詳細)
(1) 幕末佐賀藩は「近代化のトップランナー」(貧乏藩から、近代化のトップランナーへの盛り上がり)
・佐賀藩第10代藩主 鍋島直正 a.k.a. 閑叟は、17歳で藩主となり、財政難に苦しむ貧乏藩を、徹底的な質素
倹約や農政改革、特産物輸出等の藩政改革によって藩財政を再建し、十数年後には藩政にのしあがった。
・佐賀藩は、江戸時代初期から幕末に至るまで、西洋諸国との唯一の窓口である長崎(当時長崎は幕府領)
に隣接していることから、幕府から長崎警備の軍役に命じられていた。
・長崎警備は藩財政の大きな負担を要するが、一方で「異国」「西洋」の書物・文化・知識に触れる機会
が多く、自ずと国際感覚が醸成されることになり、特に鍋島閑叟が藩主となつてからは、西洋の先進性、
マネジメント力、リーダーシップと相まって、佐賀藩は西洋に倣った近代化政策を推し進めた。
・閑叟は長崎警備の視察の際、オランダ商船や軍艦に自ら乗り込み船内を見学するなど、西洋の進んだ文明
を実見し体感。自ら海防感覚を感じたのは、ペリー来航の約10年前に、お隣清国(中国)で勃発したアヘン戦争で、
アジアの大国である清が欧米の砲艦外交になすすべもなく敗れ、半植民地状態へ転落した事件であり、
日本の最西端で天下国家のために海防を担う立場として、欧米列強国に対する強烈な警戒心が生まれた。
・世界情勢をいち早く把握し、これに対抗するために出した答えが、鉄製大砲と蒸気船の自力開発だった
ことによって、オール佐賀による近代化政策を可能とした。
・閑叟公の座右の銘「先憂後楽」(天下の憂いに先んじて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ)
⇒リーダーとしての心得、帝王学を大切に



サラリーマンとMC 二足のわらじをはく DEJI さん



DEJI さんと田中さん なんと同級生!!



DEJI さんに連絡してくれる担当の田中さん

振り返る。卒業後、早稲田大学に入学。タイムスター
などを輩出した音楽サークル「GALAXY」に加入
した。「新入生には毎週、大隈講堂の前で地声でラッ
プをするという、地獄のイベント」が課せられました。
田舎から出てきた青年が頑張っている、みたいな垢抜
けないこと言っていた記憶があります。まあ今とあま
り変わらないかもしれません」とDEJIさんは
笑う。今回共演したKEN THE 390 は実は同
級生。ほかにも現在、プロで活躍する逸材が多数在籍
していたという。「1年生のころから注目を浴びる同
級生もいる中で、悶々とする日々でした。ただ3年に
なってヒップホップ専門誌に投稿したデモが掲載され
て手応えを感じました」。大学卒業後は司法試験の予
備校に通いながら、2005年にはフリースタイル
バトル「ULTIMATE MC BATTLE」第1
回グランドチャンピオン大会でベスト8入り。翌年に
リリースするなど、音楽活動を継続。そして26歳で
就職。「現実と仲良くしながら、音楽を続けていま
います」。

そんなDEJIさんに来た今回のオフア。「めつ
ちや嬉しかったです。ただ直正については、ヤベエ知
らねえ」というか、名前を聞いたことある程度でし
た。田中くんが作った資料を読んで、すごく面白かつ
た。直正はその時代から飛び抜けた偉人。先見の明と
いうか、人が見えないものが見えている。今だと孫
正義さんみたいな存在かも知れませんが。制作のスケ
ジュールはタイトだったという。「期限は3日後だっ
たんじやないかな。おいおい、という感じでした」と
DEJIさん。田中さんは「リリックの監修を歴史
の専門家に依頼していたので、本当に時間がなかつた
んです」と説明する。結局、依頼された日の夜に作
り上げたという。

DEJIさんのリリックで印象的なのは最後の3
行。「おい薩長土の後ろになどつかん/がばい誇り
高か男たち/鯨の門から見渡す世界」。佐賀弁のイン
トネーションをうまくリズムにのせつつ、郷土の固有
名詞を散りばめる。地元出身者ならではのリリックだ。

賢人のひとり、大隈重信が創立した早稲田大学のソ
ウルミュージック研究会「GALAXY」のOBで
あるKEN THE 390、KOHEI JAPAN、
DEJIの3人はスナナリと決まったが、もうひと
りの人選は難航した。「なかなかバシッとくる人がい
なくて、いろいろ調べているうちに、ネット情報で
Kダブシャインさんが渋谷区にある松濤中学校の出
身ということが分かりました。松濤という地名は、維
新後に鍋島家がこの地で開いた茶園に因んでいます。
松濤中は鍋島家の邸宅跡地に建てられているんです
よ。ダメ元で交渉してみたら、なんとOK!! Kダ
ブシャインさんは小学校の授業で渋谷の歴史を学ぶ
中で、松濤と鍋島家との関わりを知っていたそうで
す」。全員に渡されたのが田中さん作成の資料。直正
の業績がみっちり。本文の3割以上は太字で強調され
ている。「七賢人で一番好きなのは鍋島直正」という
田中さんの情熱が伝わってくる。「資料をもとに、リ
リックを作ってもらいました。そうだ、その辺の話は
DEJIに聞くのはどうでしょうか? 実は高校の同
級生なんです」。おもむろに携帯を取り出す田中さん。
なんと取材OK。翌日夜、新宿で話を聞くことになっ
た。

郷土への謝恩 すぎるの厳禁

待ち合わせ場所は西武新宿駅内の喫茶店とのことだ
が、建物のどこにあるか分からず探し回る。ようやく
辿りついたら、すでに2人は到着していた。ん? 田
中さんの隣の男性もスーツ姿だ。「仕事帰りだったの
で、撮影用にちよつと着替えてきます」とDEJI
さん。実は某世界的コンサル企業で働くサラリーマン。
音楽活動は週末が中心だという。
DEJIさんがヒップホップに目覚めたのは佐賀
西高2年生の頃。「部活を辞めて、DJをしていた友
人と遊んでいるうち、当時、佐賀でも流行っていたス
トリート文化に魅了されました。スケボーをやったり、
クラブへいったり。「友人の家で泊りがけで勉強する」
と親に嘘をついて、遊んでいたこともありまし

ネットで“バズる”には?

“バズる”とは、一般的にはツイッターやフェイスブックなどソーシャルネットワークサービス(SNS)で情報が一気に拡散していく様子を指している。だがSNS内だけで情報を発信しても、そんなに話題にはならない。ネットメディアからTV、新聞など、いろんなメディアを駆使して情報を拡散する必要があるという。その具体的な事例として、昨年7月に佐賀県が発表した梅酒・果実酒専門店「SHUGAR MARKET」と県流通・通商課とのコラボ企画について、県の広報担当者さんに聞いた。

同企画では、マッチョな男性が猛スピードで手動のかき氷機を回す「筋肉かき氷」というパフォーマンスで活動している県在住のグループをPRに起用。各メディアに情報を流したところ、ファッション系のウェブメディアに掲載され、その公式ツイッターの記事が約3,000回、リツイート(再投稿)された。担当者さんは「日本最大のポータルサイト『ヤフー! ジャパン』のトップページの『話題なう』のコーナーに『筋肉かき氷 気になる』のトピックスが1時間にわたり掲載。ここからニュースサイトからまとめサイトへ拡散。そして全国ネットのTV番組からの取材され、さらに情報が広がっていきました」と振り返る。

つまり、ネットで“バズる”ためには、SNSだけで完結するのは

県外向け情報発信5原則

- 1 情報発信のタイミング
雑誌：3ヶ月前→テレビ：2ヶ月前→新聞・ウェブ：1ヶ月前
- 2 プレスリリース配信のタイミング
午前中(9~11時) 週の前半(火曜日・水曜日)
- 3 プレスリリース配信の必須条件
リリースと同時にホームページを更新・公開
- 4 情報を受け取る側(メディア、ターゲット)のメリットを考える
- 5 “佐賀ならではの”を必ず意識する

なく、「ネットメディア→SNS→TV・新聞など→SNS」といったようなメディアを巻き込みながら、雪だるま式に情報を拡散していく必要がある。そのためには、いろんなメディアに情報を伝える「プレスリリース」の出来が鍵を握るといえる。

ネットメディアには1日に約2万本ものプレスリリースが届いているという。必然的にメディア担当者が1つのリリースに目を通すのは「5秒」くらいになってしまう。見出しやタイトル、画像でインパクトを出さないとスルーされてしまう。せっかく関心を引いても、情報が足りないリリースでは役に立たない。そのままコピーするだけでニュース記事になるくらいの完成度が求められる。リリースを出すタイミングを含めニュースを作る側に立った情報提供が大事だ。県の担当者さんが庁内の各事業担当者向けに作成した「県外向け情報発信5原則」を参考にしてほしい。

いろんなメディアに効率的に情報発信するには、プレスリリース配信サービスを利用するという方法がある。ある会社では、数百媒体に配信してくれる3万円。新商品を開発したり、面白いイベントを企画したら、利用してみるのもいいかもしれない。

現在、最も情報拡散力があるサイトである「ヤフー! ジャパン」に掲載される記事は1日約4,000本。そのうちトピックスに上がるのは、わずか約80本だ。この狭き門を目指し、“バズる”情報提供について考えよう!!



DEJIさんサイン入りのカセットテープをモテモテさが読者の方にプレゼント!!
詳しい応募方法は P116 へ



これまでの企画を例にアドバイスしてくれる林さん。いい人だ!!



“難題”にネットでは見たことのないような厳しい表情を見せる林さん。なんだかすみません!!



デイリーポータルZの林さん。モテモテさが気に入ってくれたもよう
《デイリーポータルZ》<http://portal.nifty.com>

「子どもの頃、野球の練習をしていたのが鯉の門あたりの広場でした。雨の日は門の中で腹筋したり。そんな思い出を織り込みつつ、距離感を保つのが難しかったです」とDEJIさん。田中さんは「KダブシャインさんがDEJIのパートを褒めていました。パーソナルな要素も上手く入れ込んでいます」と裏話を教えてくれた。DEJIさんは「レジェンドに評価してもらって嬉しい!このプロジェクトはなんといいか、ずべてはいい感じ。KEN THE 390は導入部でさらっと概要を説明して『さすがメジャー』という感じ。KOH E I JAPANさんは練った感じが伝わってきて『ベテランの凄み』があります」。企画物の枠に収まらない4者4様の個性を感じる作品に仕上がった。

「Kダブシャインさんから提案頂きました。『自分のリリックにも入れるから、よければタイトル候補に』と。他のMCの皆さんにも意見を聞いて、これでもいいかと決めました」と田中さん。DEJIさんは「この言葉は元々、映画『スターウォーズ』のエンディングに流れるもので、そこからヒップホップのタイトルとして使われるようになりました。サーガ(古い北欧語で「物語」の意味)と佐賀を掛けたKダブシャインさんらしいネーミングです」と解説してくれた。

最後に疑問なのは、ミュージックビデオの直正役が武田真治さんだということ。「武田さんの出身地である北海道は直正公が初代開拓長官を務めた場所です。その縁でお願いしました」と田中さん。うーんちょっと苦しい気がする。田中さんは「北海道の人は佐賀とのつながりを良く知っているそうです。曲があまりにもカッコ良くできてしまったので、動画には少し違和感や突っ込みどころを入れたかった。武田さんが待姿で肉体的美を見せつけながらサックスを吹くと「何だこれは!」ってなるんじゃないか、と思ったんです。でも武田さんから『待姿のままサックスは映像的にしっくりこない気がする』と指摘されて…(笑)。最終的にすぐクールな映像になりました」。

3月に公開された同曲はヒップホップ業界を中心に「子どもの頃、野球の練習をしていたのが鯉の門あたりの広場でした。雨の日は門の中で腹筋したり。そんな思い出を織り込みつつ、距離感を保つのが難しかったです」とDEJIさん。田中さんは「KダブシャインさんがDEJIのパートを褒めていました。パーソナルな要素も上手く入れ込んでいます」と裏話を教えてくれた。DEJIさんは「レジェンドに評価してもらって嬉しい!このプロジェクトはなんといいか、ずべてはいい感じ。KEN THE 390は導入部でさらっと概要を説明して『さすがメジャー』という感じ。KOH E I JAPANさんは練った感じが伝わってきて『ベテランの凄み』があります」。企画物の枠に収まらない4者4様の個性を感じる作品に仕上がった。

「「バズる」ことを目指すのもどうか、とも思いますが、実はデイリーポータルZには瞬間的にたくさん読まれたコンテンツはあまりありません。時間が経っても、ずっと読まれるものが結果的にたくさんある。セスにつながります。保険会社とのタイアップ企画『ハトが選んだ生命保険に入る』は8年前のもので、いまだに読まれています。そういう情報の存在もありだと思えます。うーんさすがに含蓄ある言葉だ。確かにこの「The SAGA Continues...」という企画は、瞬間的に話題になるだけではもったいない。それくらいヒップホップの楽曲として高い完成度を感じさせる。まずは佐賀人を中心に、徐々に浸透していくことで、長く愛される曲になること。担当者の田中さんも、さらなる展開を考えている様子だ。いつの日か子どもからお年寄りまで、直正公ラップで盛り上がるようになる。そうすれば自ずとネットでも話題になるのではないだろうか。

「「バズる」ことを目指すのもどうか、とも思いますが、実はデイリーポータルZには瞬間的にたくさん読まれたコンテンツはあまりありません。時間が経っても、ずっと読まれるものが結果的にたくさんある。セスにつながります。保険会社とのタイアップ企画『ハトが選んだ生命保険に入る』は8年前のもので、いまだに読まれています。そういう情報の存在もありだと思えます。うーんさすがに含蓄ある言葉だ。確かにこの「The SAGA Continues...」という企画は、瞬間的に話題になるだけではもったいない。それくらいヒップホップの楽曲として高い完成度を感じさせる。まずは佐賀人を中心に、徐々に浸透していくことで、長く愛される曲になること。担当者の田中さんも、さらなる展開を考えている様子だ。いつの日か子どもからお年寄りまで、直正公ラップで盛り上がるようになる。そうすれば自ずとネットでも話題になるのではないだろうか。」

「「バズる」ことを目指すのもどうか、とも思いますが、実はデイリーポータルZには瞬間的にたくさん読まれたコンテンツはあまりありません。時間が経っても、ずっと読まれるものが結果的にたくさんある。セスにつながります。保険会社とのタイアップ企画『ハトが選んだ生命保険に入る』は8年前のもので、いまだに読まれています。そういう情報の存在もありだと思えます。うーんさすがに含蓄ある言葉だ。確かにこの「The SAGA Continues...」という企画は、瞬間的に話題になるだけではもったいない。それくらいヒップホップの楽曲として高い完成度を感じさせる。まずは佐賀人を中心に、徐々に浸透していくことで、長く愛される曲になること。担当者の田中さんも、さらなる展開を考えている様子だ。いつの日か子どもからお年寄りまで、直正公ラップで盛り上がるようになる。そうすれば自ずとネットでも話題になるのではないだろうか。」

ネットの達人 裏話に込め

「些細な、気になること。無駄なこと」を追求する

サイト「デイリーポータルZ」。佐賀空港に春秋航空の上海便が就航したときには、佐賀出身のライターが「東京から茨城空港で飛行機に乗り、上海経由で帰省する」というレポートを書くなど、日々、面白いコンテンツを生み出しているネット民の支持も厚い。今回はウェブマスターを務める林雄司さんにズバリ、「The SAGA Continues...」をネットで流行らせるにはどうしたらいいか聞いてみた。

挨拶代わりに丸ほうろと先月号のモテモテさがを渡す。「この表紙の犬：顔がやたら凛々しいですね。(パラパラとページをめくり)車安いなあ!」。目の前でこんなに熱心に読んでくれる人は珍しい。さて本題に入る。まずは「The SAGA Continues...」の動画を聞いてもらう。「カッコいいですね!ただネットで流行るのはツッコミを入れられるもの。この動画は世界観が完成されちゃって、ふざけちゃいけない感じがします」と林さん。確かに真面目に直正の功績を歌い上げていて、オモシロ要素は少ない。「ただ、最近よくある自治体のオモシロPR動画と違って、カッコ良いものを作っていることは、なにかしらツッコミどころがある気がします。動画から伝わってくる、この異常な熱量はなんなのか。担当者さんの熱意がすごいかな。だったらそういう裏話に焦点を当てるとか、共感できるポイントを分かりやすく指摘

に話題になった。音楽専門サイトで紹介されるなど、高い評価を受けている。特設サイトでの公開に加え、音源を録音したカセットテープを150本、東京と佐賀で配布。このプロモーションも音楽好きには話題になった。「これまでのサガプライズ!事業で掲載されなかったメディアで扱ってもらったりするなど、反響はあったと思いますが、正直もう少し、音楽に詳しくない人にも伝えられたら良いのですが」と田中さん。これだけ良い楽曲なのに、伝わっていません。どうすれば良いのか? 詳しい人に聞いてみよう!